

入浴問題の根本からメスを入れた、入浴装置のシステム化。

順送式

入浴装置

PAT 028362

PAT 057481

PB SYSTEM

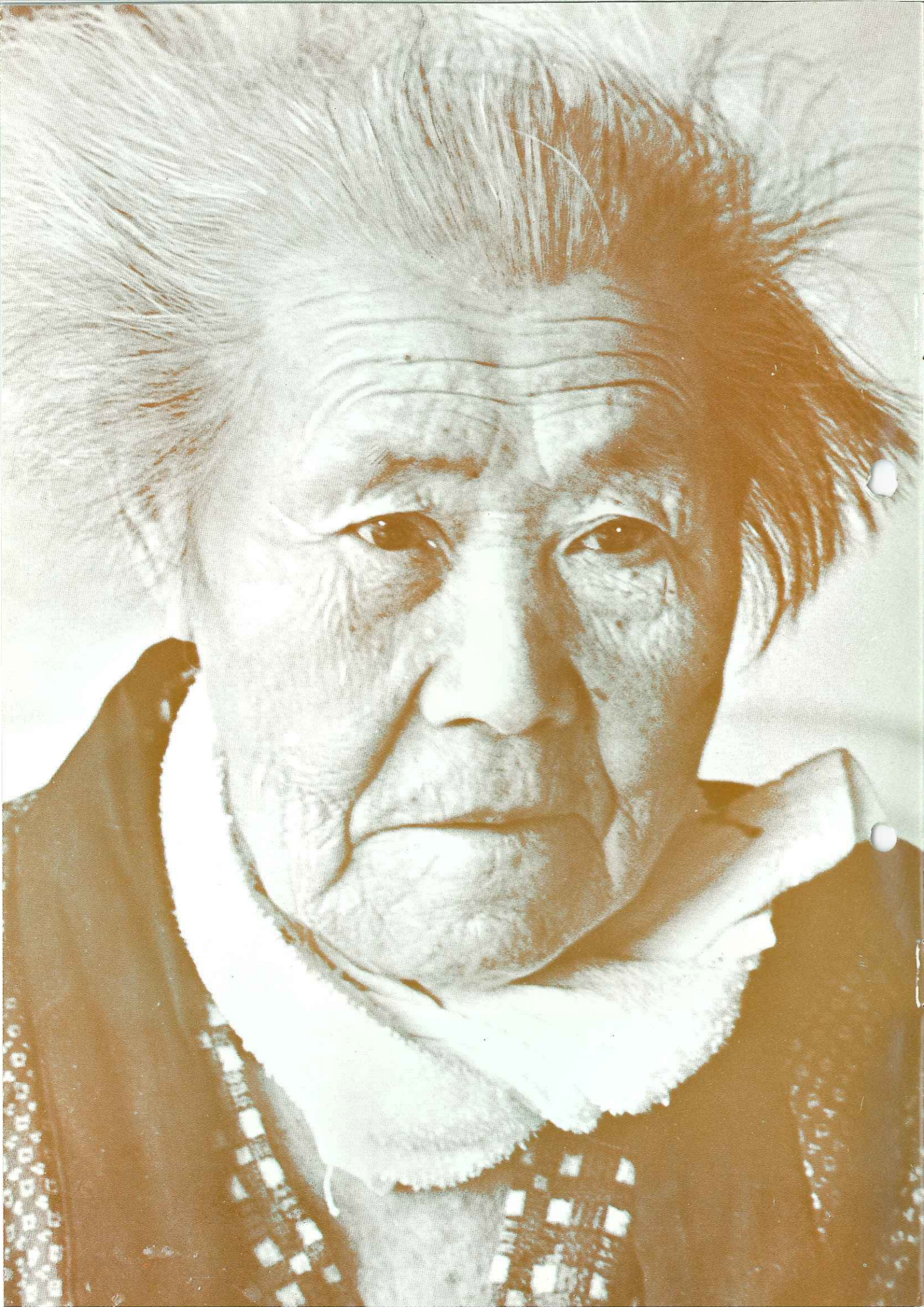
Progressive

Bathing

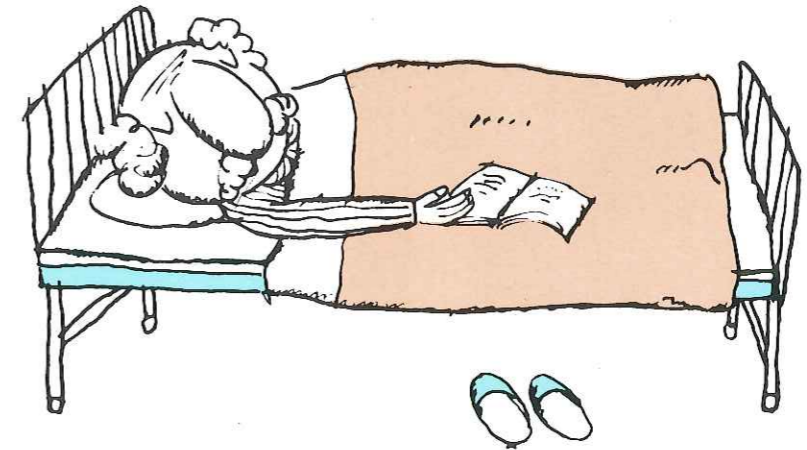
System



酒井医療販売株式会社



特別養護老人ホームにおける……



寝たきり老人の 入浴を考える

もう、まったく目前に迫った高齢化社会をまえにして、全国で“特別養護老人ホーム”が数多く設立されています。老人専門病院が建設され、老人病棟が増築される。そんな中で老人医療と老人福祉の接点としての特養は社会的な行為としてのリハビリテーションを本質的に内在するもの—リハビリテーション領域での仕事をつづけている私ども酒井にとっても、それは注目と期待の対象でした。“ねたきり”は決して固定化されるべきではない—私たちはそう考えます。

しかし、現在の段階で私どもが、“ねたきり”老人のリハビリテーションや、その処遇されるべき真の姿を論じたり、“心”のありようの問題までも取りあげて社会や福祉のあるべき姿を論ずることは、残念ながら荷がかちすぎるようです。むしろ現に私どもがその仕事を通じて日常的に接している現実の“特養”の中で、職員の方々が多くの社会的な制約に抗らいながら繰り返しておられる日々の困難さを具体的に考え、それをささやかにでも前向きに改善すること、それこそリハビリテーション機器・装置を製造している私どもにふさわしいテーマであると考えます。そして忙しすぎる特養が少しでも“ゆとり”をとりもどされたとき、そこに柔軟なリハビリテーションがゆるぎなく位置づけられねばならない、私どもはそう願っています。

**「特養」の仕事には、口では云えない
多くの苦勞がつきものです。**

それにしても、外部から見ると“のどか”に“ゆったり”としてみえる“特養”の職員の方の忙しさ、寮母さんの仕事の大変さは想像をはるかにこえています。端的にいって今日の“特養”での日常は“食事”“排泄”“入浴”とそのそれぞれに附随する行為のくりかえしなのですが、しかしその仕事のどのひとつをとりあげても、そこに人間の心がこめられていなくてはなりません。おとしよりへの心くばりが無限に必要とされているのです。

日本人、とくに日本の老人にとって“入浴”は文字どおり湯の中につかるだけのものではなく、まして体をきれいにする行為ではありません。医学的な身体の管理の上からも必要であるばかりでなく、まさに“心の洗濯”であり“生命の洗濯”であるのです。ここに体の不自由な、ひとりでの入浴のできないおとしよりが多数あつまっている“特養”という生活集団がある—その全てを踏まえて考えてゆきたいと思います。

水治療法器械を長い間開発し、製造しつづけて来た経験と実績と技術—この自負にささえられてこの分野に必ず新しい何かをプラスできる、そう確信しています。

入浴介助は重労働です。慢性的「腰痛」に悩む寮母さんたち

こんなにある

「腰痛」の原因



● 苦しい抱きかかえ作業

作業者が最も困難と疲労を訴えるのが「抱きかかえ作業」です。ベッドからストレッチャーへ、ストレッチャーから洗い台へ、洗い台から浴槽へと一人または二人の手で抱きかかえが行われています。いわゆる入浴装置を備えている施設でも抱きかかえる動作が極めて多く、それも高い位置から低い位置へ、低い位置から高い位置へという高低差のある抱きかかえが多く見られます。もっとも腰痛の原因になるのはこの高低差のある抱きかかえ動作のようで、大柄なおとしよりを抱きかかえる作業は、女性の仕事とは言えない程です。入浴装置の手順としては抱きかかえの作業が必要でないところでも、能率のために抱きかかえてしまうケースが圧倒的です。またハンドルを操作する作業も「かえて大変」と抱いています。



● かがんでする作業

入浴だけでなく、特養の作業には中腰でかがんで行わねばならない動作がたくさんあります。しかし入浴介助にはこの動作が非常に多く、作業姿勢のかなり大きな部分にみられます。殊に「洗い」の際の姿勢には、かがみ動作が連続するようで、洗い台の高さが適当でも、介助者（作業）と入浴者（おとしより）の向き合う関係が悪いと、妙なかがみ動作になったり、腰をひねったままの動作になります。ハンドルなどの取付位置にもかかむ姿勢をもとめるものが多いようです。



● ふりむき・ひねり動作

作業の能率化のためと、洗い台、浴槽の設置位置の関係でおこるこの動作が意外に多く、腰を疲れさせる原因となります。また洗いながらの湯の汲み出し、タオル（スポンジ）、石鹸などの用具のとりあげと、戻しも下肢を動かさないためかふりむき、ひねりの原因となっています。手桶けや洗いの道具を床におくところも多く、かがんだり、ふりむいたり無理な姿勢がつづきます。



● しゃがみ作業

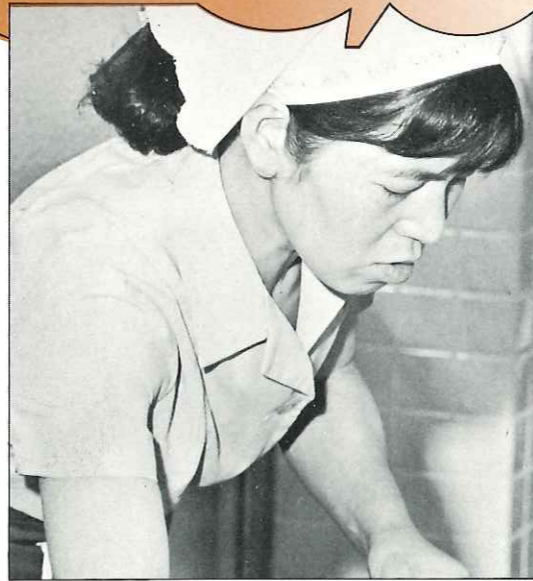
腰の低い、つくりつけの浴槽と、床面の洗い場、ケースは少ないのですが、こんな施設での介助者はしゃがんだり、かがんだりする動作の連続で、腰を伸ばす機会も少いようです。ことに濡れやすいので、疲労は一層強く、能率もあがりません。



● 意外に長い動線

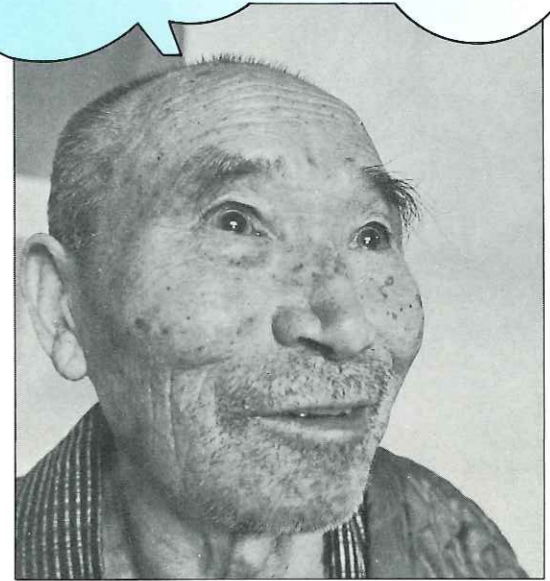
浴室内の動線が意外に複雑で長いケースが多いことに気がきます。浴槽と洗い場所との関係、入口と移し替えの場所、シャワーや上り湯のカランの位置、浴槽の縁をグルリと廻らねばならない程のスペースの狭さ、一つ一つは短い動線なのですが、始終動いていなければならない、それにかがみ動作、ふりむき動作、もちろん抱きかかえ動作がプラスされています。時間をできる限り短縮させたい、という意志がかえって動線を複雑にしていることも見逃せません。

介助者は……何を望んでいるか



「腰が痛い」「肩がこる」「膝が痛い」おおよそ殆どの寮母さんがこう訴えています。「お風呂の仕事が一番つらい」「腰が痛むのは入浴のあと」との声が強く、入浴は難事業のようです。どうなることが望ましいかとお尋ねしても、「さあ」とあまり明確なこたえは得にくいのですが、「太ったおとしよりを抱きかかえずに済んだら」という声はかなり多く、「もっとラクに入浴させたい」という抽象的な意見が圧倒的に多く聞かれます。しかし「おじいちゃん、おばあちゃんたちはお風呂をとっても楽しみにしているから…」という気持ちが「器械をカチャカチャやっているより抱きかかえた方が早い」という気持ちに転化させ、一人でも多くの入浴をと無理な姿勢での作業、抱きかかえ作業に、かりたてるのでしょうか。「風邪ひかすわけにはいきません」と言われる語調の強さの中にはおとしよりに対する親愛の気持ちがにじみ出ているようでした。「仕事としてはかなりきついです」「お風呂のあとは気抜けするみたい」「腰がとても痛みます」と訴えながらも、手を抜くことを考えない寮母さんたち。「石鹸を使ったあとの濡れた体はとても滑りやすい」ので神経も休まっていない様子でした。安心してラクに作業できる入浴法を何としてもみつければ、と痛感させられます。

おとしよりは……何を望んでいるか



施設を見学し、いろいろな調査をした際に、入浴するおとしよりに入浴に何を望むかいろいろお尋ねしてみました。やはり一番多い希望が「もっと回数多く入りたい」というもので、殆どすべての方の希望でした。「寮母さんに苦勞をかけて心苦しいが…」とつけ加えられた方もかなりおられました。「ホームに入って一番嬉しいことは、お風呂に入れてもらえること」といわれる方が非常に多く、入浴の重要さがよくわかります。在宅では「入浴」はなかなかむづかしいことのようなのです。入浴の仕方についての希望では「みんなと一緒に入りたい」「広いお風呂に入りたい」という声極めて多く、入浴は「心」の問題であり、憩いの場、リラックスできる場でのコミュニケーションが強くもとめられていることを痛感させられました。それにしても一人一人が入浴する従来の入浴方法では、おとしよりは入浴を非常に喜びながらもどうしても入浴が個々に切りはなされた特別な行為として考えられているようで、集団生活であればある程、仲間と一緒に入浴したいという願望がにじみ出ています。一般の入浴と違ってストレッチャー、担架、金属の浴槽といった肌ざわりも、おとしよりには心の抵抗となっているのでしょうか。「抱きかかえられるのもきついんですよ」とそっともらされたおとしよりもいるのです。

酒井の新入浴方式はこゝが
最大のチェックポイントでした。

“介助がラクである、
ことと……
“能率的である、
ことは……
同じではない！”



ハンドルを廻わせば担架ごと昇降する入浴装置があっても、その日入浴をさせねばならない“おとしより”の人数を考えれば、“エイッ”とおとしよりを抱きかかえて、ハンドルをグルグルまわす時間をばかばかにはなりませんし、洗い作業のためにはつごうのよい高さである腰高の浴槽は、ベット——ストレッチャー——洗い台——浴槽とまちまちの高低差をつくり、いちいち移しかえる困難さと面倒さを生み出しています。入浴装置と呼ばれるものが設備されていながら、それらの介助機構は無視されてしまって、寮母さんが二人がかりでおとしよりを抱きかかえている——そんな情景を私たちはしばしば目撃せねばなりません。入浴時にリハビリテーションのためのなにかをプラスする、そんな悠長なことは、戦場の如き入浴風景の前ではまさに空論でした。

そして、それにもまして私どもにとってショックだったこと。それは寮母さんたちが腰の痛みを訴えながらクタクタになって働いても、おとしよりは“週に1回”しか入浴できない。おしめをあてていても、夏のムシ暑いさなかでも、絶対に週2回の入浴は望めない、その現実でした。たくさん施設の入浴を見学し、作業内容を検討し、時間を測ったりした上で、さっそく私たちはかんたんな計算をしてみました。

○入浴時間は1人あたり 14～17分。

○1日に3時間の入浴時間をとって1日に12名がやっと、

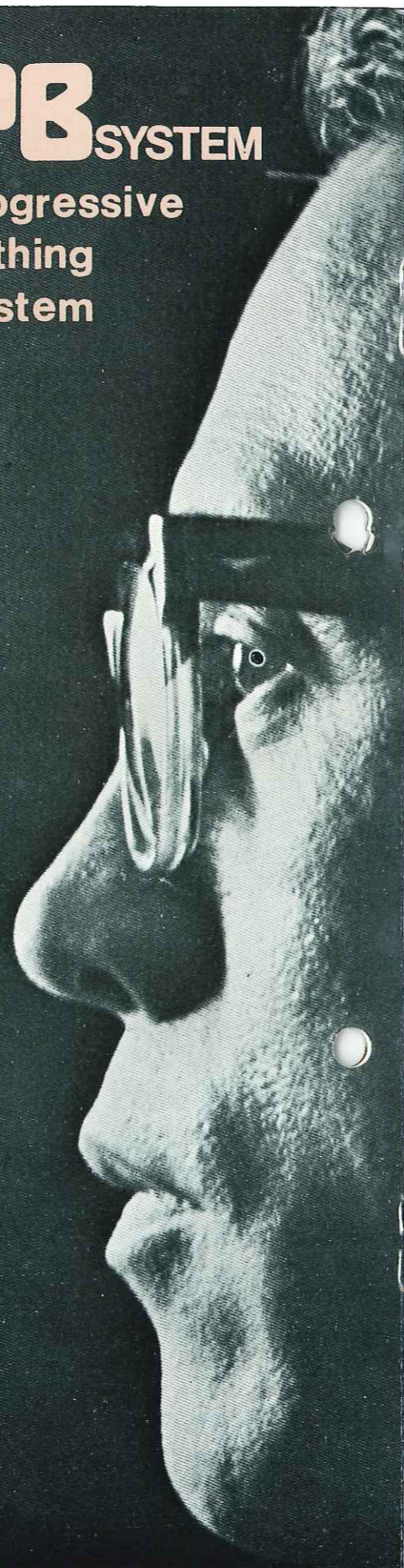
○週5日の入浴日をもうけて60名

○4時間の入浴時間をとり、5日の入浴日設定で80～85名

実際に入浴のときには3～4名の寮母さんがつきっきりですから、毎日4時間、週に5日間の入浴日の設定では、他の仕事がなにもできず、想定することすら不可能なようです。いずれにしても70床、100床の施設はもちろん、50床の施設でも、1人のおとしよりに週2回の入浴をさせることは、この簡単な計算でもあきらかなように不可能なのです。ましてや介助者の重労働。腰痛はすべての施設で訴えられていました。

その上の“食事”や“排泄”などのお世話のことを考えたら、リハビリテーションに手が廻らないのは当然すぎる程当然、入浴介助そのものが大問題なのです。

PB SYSTEM Progressive Bathing System



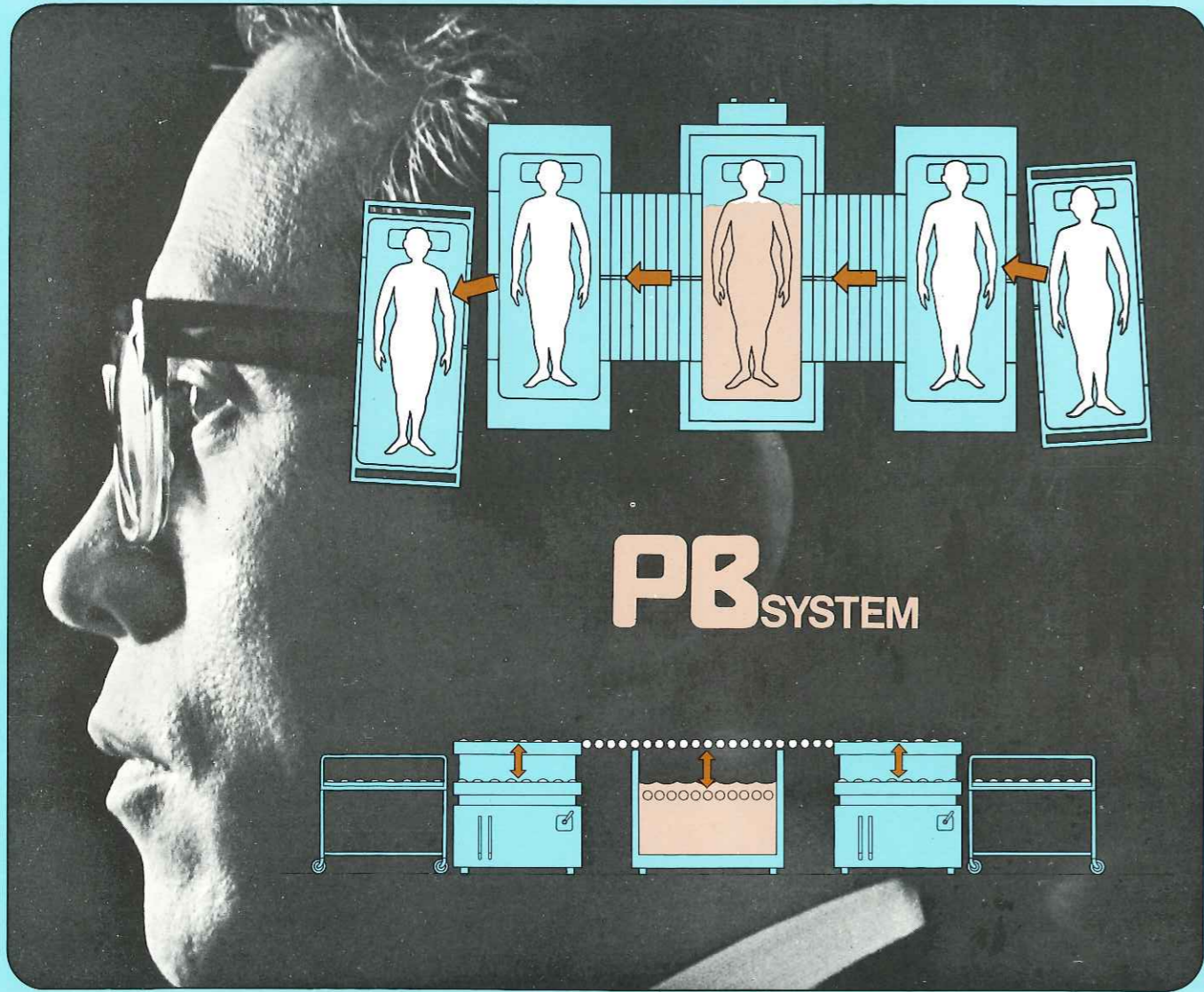
特養の生活をつぶさに知り……



酒井は新しい入浴方式を考えました。

一人づつの入浴時間が同じで……

総入浴時間が大巾に短縮される。



順送式入浴装置の完成まで(その1)

できるだけ多くの資料を集めて設計以前の問題点を検討して実情を把握する



これまでの調査及びアンケートの整理

①老人の入浴という事で特に考慮すべき点……

①上から下までの入浴は絶対的いやがる→シャワー

②風呂に入らなかつた→入浴は必要→福祉的配慮

③何人かで一緒に入浴できるとも考え

④老人室はこわいやすい!

⑤太い人や若い人多い

※ 何回か考えたことあるよ

⑥何回か入浴できずやめちゃう人多い

福祉的機械の使用はもったいない?

4/17 2/24 会議で決定

(A) 7/21 条件化

① 浴室

(A) 浴室のバットの高さ } 条件化
(B) 7/21 浴室に浴槽は不要 } 結果は否
(C) 若い人にも無理のない高さ }
(D) 洗剤が楽に使えるようにする }
バットは必要? 2/24 条件化

※ 各設計者のアフレコを5/17までに提出できるか

4/16

日本人の入浴習慣の図式化

① 脱衣 → ② 下洗い(非常に簡単) → ③ 入浴(お風呂)

④ 洗い → ⑤ 入浴 → ⑥ 上がり湯 → ⑦ 小き → ⑧ 着衣

一般の場合

↓

患者さんの場合はどうか

① 病室からストレッチャーで浴室へ → ② 脱衣 → ③ 下洗い(お風呂)

④ 下湯入浴 → ⑤ 洗い(頭部洗) → ⑥ 入浴 → ⑦ 上がり湯(お風呂)

⑧ 小き → ⑨ 脱衣 → ⑩ 浴室からストレッチャーで病室へ

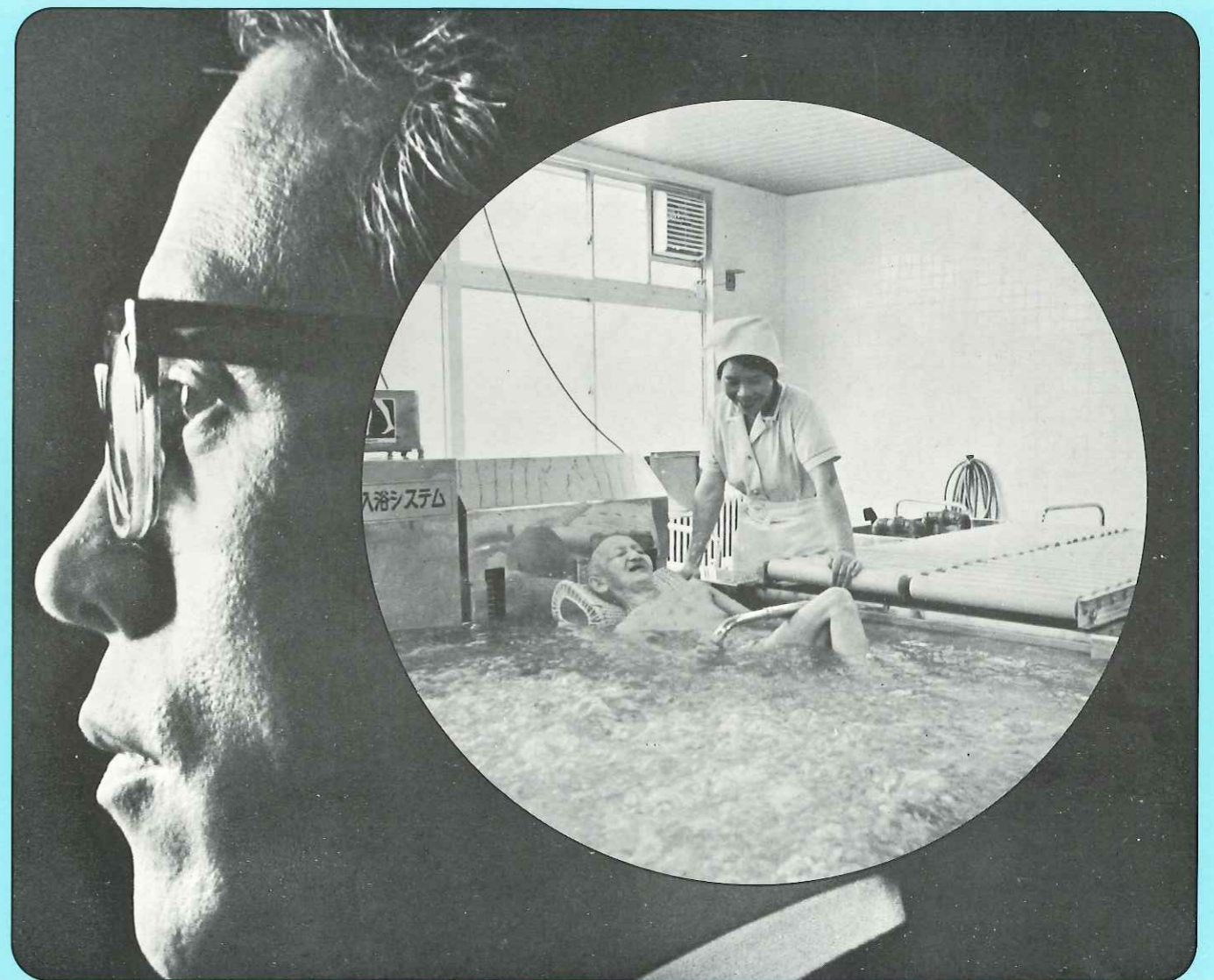
上記工程で何段階かの簡便化はどの部分が可能か?

(A) もっと簡単にできるのか
(B) 病室での移しの方法を考えること

※ 何回か患者さんとコミュニケーションまで考えた外部の相談も必要

5/2

入浴から生まれるコミュニケーション。



順送式入浴装置の完成まで(その2)

各設計者のプランを持ちよって具体的な検討をくり返す。

浴室と装置 → そのシステム化

(NO.1) モデルケースとしての試案

浴室の寸法はどのように決めるか(お風呂の大きさ)はいい予備のストレッチャーが必要

5/14

〈各設計者のアフレコ〉を纏めてみる

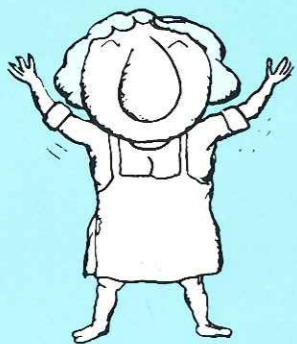
(A) 壁面からの

(B) リフト

(C) 板橋が単純化する

スペースが足りない

5/27



疲れが半減します。

まず「抱きかかえる」作業がなくなりました。不自然な「かがみこむ」動作もほとんどありません。——介助者の苦労の大半はこれで解消されました。そのうえ、この順送式入浴装置では介助者の仕事も明確に分業化され、それぞれの介助者の作業位置も研究して設計されていますから、ムダな動線がとりのぞかれ、むやみに動く必要がありません。シャワーもふんだんに使え、湯の汲み出し作業もゼロ、石鹸、タオル、スポンジなど小物も介助者の手もとにキッチンにおいて作業の能率はグリーンとアップ、もちろん昇降スイッチはいちばんつこうのよい位置にセットされています。しかも膝で軽く押す方式。「余裕」はそこかしこに生れています。とにかく介助者はゴシゴシ洗い、セッセと汚れを流してあげてください。ゴシゴシこする「おとしより」はいちばんそれを望んでいます。あとは担架をそれぞれにとめるストッパーに注意するだけ、安心も疲れをとりのぞく大きな要素のひとつです。

しかも、しかもです。ひとりあたりの入浴時間はザッと $\frac{1}{2}$ に短縮されていますから、作業時間が大巾に短縮。「おとしより」に週2回の入浴をさせてあげても（次のページを参照）「疲れ」は半減、いままでの入浴方式に比べ作業時間も半分ですんでしまうのです。まず「疲労」や「腰痛」から、解放されてください。そして「余裕」をもってサービスしてあげてください。そこにならず何かが生れます。そしてもっとも大きい何かは、グリーンと節約された時間から生れてきます、もう入浴介助は難事業ではなくなりました。この節約されたエネルギーは、ホーム全体を明るくぬりかえてしまうことでしよう。それでいてホラ、「おとしより」は週2回お風呂にはいれるんです。



慢性腰痛症の解決

お風呂にはいる「おとしより」は、ベットからプラスチックの清潔な担架によこたわって浴室へ。洗い—温浴—拭き上げ—再びベットへ、ずっと同じ担架に横になったまま。担架はスムーズに回転するローラー付きストレッチャーで浴室へ運ばれ、浴室内では洗い台、温浴槽、清拭台の上面にそなえられたローラーの上をスムーズに滑走してゆきます。担架の順送はまったくの同一平面を滑るのでぜんぜんショックなし。とにかくおとしよりを「抱きかかえ」なくてはならないところはどこにもないのです。

この水平ショックなし移動のヒミツは、ベッドの高さ、ストレッチャーの高さ、介助作業に必要な洗い台、清拭台の高さを徹底的に研究したこと。担架とローラーによる移動を採用したこと。温浴槽でもローラー付きの底板が、洗い台、清拭台とまったく同じ高さから、おとしよりの温浴にちょうどよい深さまで自動的に沈み、自動的に上るので、これも移動のときは同一平面、搬送はローラー上の担架をかるく押すだけ、まったくいらない担架の裏底とローラーがしっかりとフィットしてスムーズに動きます。上下動はスイッチを膝で軽く押すだけ、とにかく搬送には介助者の力はぜんぜんいりません。洗い台、清拭台の上下昇降（標準タイプ）も自動式、おこのみの高さに止りますから介助者の作業姿勢は自然に立つだけ。「抱きかかえ動作」だけでなく、不必要な「かがみ動作」もぜんぜんなくなりました。これで「腰痛症」の心配はすっかりゼロ。腰の痛みのおきどころがありません。そのうえ「おとしより」はガッシリとした洗い台の上に、しかもストッパーで固定された舟形の担架の中におられるのですから、「おとしより」の体をささえるために不自然に「かがむ」必要もなく、両手は完全に「洗い作業」につかえます。ここでも重量をささえることはいらなくなっています。



新しいコミュニケーションが誕生します。

順送式は「流れ作業」だから「おとしより」を「物」あつかいする？とんでもありません。順送式は介助者をラクにするだけではありません。「おとしより」もラクになっています。楽しくなっています。

「抱きかかえる」ことは抱く人にとって、たいへんきわまりない作業ですが、「抱かれる」ほうも苦痛です。とくに太っている「おとしより」や関節や筋肉の痛む「おとしより」には「抱きかかえられる」ことそのものが苦痛ですし、誰だって自分の体重が相手の負担になることを心苦しく思っているのです。そして「抱きかかえ」られて移されたときの肌ざわりの変化。「ヒヤッ」とした肌ざわりは「おとしより」の入浴には禁物です。「ヒヤッ」とさせないための配慮と準備、いままではそれだって大変な仕事だったハズです。それよりも、なによりもおたがいの「余裕」が生み出す最高のメリット。——

「新しいコミュニケーション」の誕生です。「おじいちゃん元気だね」「おばあちゃん、どこかかゆいところある？」「もう少しあったまろうか？」介助する人の心がどんどん「おとしより」に流れこんでゆくのです。お風呂のなかりラックスできるおじいちゃん、おばあちゃんに、こんな素晴らしいサービスはありません。そして「仲間と一緒に」入浴できる「おとしより」どうしの話もはずむのです。「やっぱり風呂はいいなあ」「こくらく、こくらく」「さいきん膝の具合はどうかね」ニギヤカな入浴です。楽しい入浴風景です。いままでの入浴にこんな雰囲気があったのでしょうか。ひとり、ひとり入浴するのは入浴が「特別な行為」でありすぎるのです。

順送式入浴装置は、ゼツタイに「おとしより」を物あつかいにする装置ではありません。お風呂で心をかよわせる、生命の洗濯をする——そのために欠かすことのできないシステムなのです。



総入浴時間の短縮。

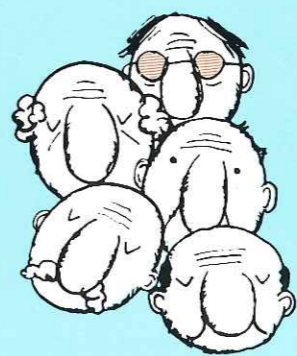
日本人の浴習慣を分析、分解して再構成する——順送式入浴装置の理論ともいべき、P・B・システムは、ひとりあたりの入浴時間を短縮させずに、総入浴者の総入浴時間を短縮させました。ポイントは、搬送（ $\frac{1}{2}$ ）—洗浄（ $\frac{1}{2}$ ）—温浴—清拭—搬送（ $\frac{1}{2}$ ）の入浴システムと、その各単位に同じ長さの時間をあたえ、サイクルを相違させながら循環させることにあります。つまり「おとしより」は各単位時間ごとにつきつぎと入浴し、1単位時間を経過することによりずつ「上っで」くるわけです。ですからP・B・システムでの1単位に、かりに4分—温浴に必要な時間—という数字を与えれば、ひとりの「おとしより」は入ってから上るまでに16分を要することになり、むしろいままでの入浴方法での入浴時間（14～17分）より長い、ほぼ同じ時間入浴することになりながら（実質的な入浴時間は、各単位への移送が簡単になり、時間が短縮されただけでもっと長くなっています）、能率的にはおよそ4倍、つまり総入浴時間をおよそ $\frac{1}{4}$ におさえられることになるわけです。

簡単な計算式にしてみましょう。いままでの入浴方法でのひとりあたりの入浴時間を15分とし、20人を入浴させることとして、P・B・システムのばあいと比べてみますと……

いままでのばあい 15分+15分+15分+15分……+15分=300分（5時間）
P・B・システムのばあい 16分+4分+4分+4分……+4分=92分（1時間32分）

時間の短縮についてはこれ以上の説明はいらないかもしれせん。とにかくザッと $\frac{1}{4}$ の時間で同人数の入浴が可能になるのです。

そしてこの「短縮」の意味が、ただ絶対時間が、短くなったという意味だけにとどまらないことを「特養」のみならずにはおわかりいただけたらと思います。そうです、今まで不可能といわれてきた週あたりの入浴回数をこれなら増やすことができますし、忙しい寮母さん（介助者）たちの1日の作業日程を大きく変えることができるようになるのです。革命的な変化といっても決してオーバーではありません。



多人数施設の必需品。

2階建て、3階建ての建物においては「階段」は有効な昇降手段です。「階段」の角度、巾、手摺りのあるなしは、その建物の使用目的に大いにかかわってくることでしよう。しかし、10階建てのビルディングでは「階段」だけでは昇降の用は果せません。たとえ階段に手摺りがついたにしても、間口が広くとられたにしても、「エレベーター」が決して欠くことのできない昇降手段です。

体の不自由な「おとしより」が50人も100人も生活している「特養」で、入浴の問題を考えると、「介助がラク」なひとりづつが対応する入浴装置を検討することは、10階建てのビルディングの「階段」を検討していることになりはしないか、ヒユとして適切かどうかはわかりませんが、どうしてもそんな感じがいなめません。

「特養」で、それも70床、100床のベッド数の多い「特養」で入浴を考え、入浴装置を考えると、どうしても「介助がラク」であることと同時に、「入浴の能率が良い」ことを考えないわけにはいかないようです。

P・B・システムにもとづく「順送式入浴装置」は、そうした「特養での入浴」「ねたきり老人の多数の入浴」から発想された装置であり、そこで検討された装置です。ですから、既にある「特養」、これからできる「特養」のすべてで、この順送式入浴装置をご検討いただきたいと思います。

日本人の浴習慣、入浴方法はフィンランドのサウナ、トルコのターキッシュバスに並んで独得なものと言われます。すくなくとも「体のクリーニング」といった意味だけでなく心身ともにもとめられるリラクゼーションの場としての「お風呂」を、積極的に考えください。こういったところに、「おとしより」の生活実感がひそんでいるのではないのでしょうか。

ご計画をお聞かせいただければ、即刻係員をおうかがいさせます。いいアイデアがおありになれば、お聞かせもいただきどう存じます。



週2回入浴の実現

いままで「特養」で、介助入浴をさせている「おとしより」に週2回入浴の機会をあたえているところは、まずありませんでした。

私たちもかなり多くの施設について調査してみました。どの施設でも介助入浴はひとりにつき週1回でした。おしめをあてがわれている失禁のあるおとしより、暑いムシムシする季節のおとしよりには、毎日とまではいかなくとも、せめて週2、3回の入浴の機会があたえられないか——これが私たちが特養の入浴を考えはじめたキッカケでした。しかし入浴の介助に大きな時間を割き、腰痛を訴えながら働いておられる寮母さんたちを目のあたりにして、これはウカツに口にだせないぞ、とも思ってきました。そして今日の特養のもつあまりにもたくさんの制約におどろき、とまどいながら、P・B・システム—この順送式入浴装置を煮つめていったのです。

現実に、順送式入浴装置をご採用いただいた各施設では、もう「おとしより」ひとりひとりが週2回入浴されることはごく「あたりまえ」になっています。失禁のある「おとしより」には3回以上入浴の機会をあたえておられるところもあるのです。そしてそのそれぞれの施設の寮母さんたちはこと入浴に関しては他のどの施設の寮母さんたちよりラクに働いておられること、これも間違いありません。

私たちがひそかにおそれていた装置に職員がふりまわされないか？あるいはシステムの流れのリズムがなかなかつかんでいただけないのではないか？といったことは、もの一週間でフツとんでしまったのです。

もちろん「おとしより」も喜んでおられます。間違いなく新しい時代にはいったことを、私たちはひそかに誇りたいと思っています。

まだまだ残されているいくつかの問題、それを地道に追いつめながら、この順送式入浴装置をたくさんのご施設におすすしたい、いま私どもはそう思っています。

順送式入浴装置

スタンダードタイプ

もっとも経済的なタイプ!

PBシステムによる“順送式入浴装置”のもっともスタンダードなタイプです。浴室のスペースもよりすくなくすみ、設備、湯量、介助者の人員配置、いずれも最小限におさえられるよう設計されています。介助者の動線も短かくて、疲労のすくない能率タイプです。

抱きかかえ作業を完全に追放!

もしストレッチャーが居室のベッドとベッドのあいだにはいることができれば、担架を“おとしより”のベッドの上にはまわせることができ、担架に“おとしより”をすべりこませることができますから“抱きかかえ”の必要がありません。あとはストレッチャーから洗浄台—浴槽—清拭台—ストレッチャーとローラー一面を滑走させるだけ、めんどろな器械の操作もまったくありません。

安全で、操作のかんたんな便利機構

ストレッチャーの高さは居室のベッドの高さにあわせてますが、ストレッチャーと洗浄台あるいは清拭台との高さの差—介助者がラクに作業するためにはこの“差”が重要—は電動式昇降機構にすべてまかせてください。膝と足で操作できるスイッチでジャストアジャスト。“おとしより”は担架にのせられたままスムーズに水平移動。完全に立位で介助できる理想的な設計です。



浴槽も安心! ゆっくりあたたまれます。

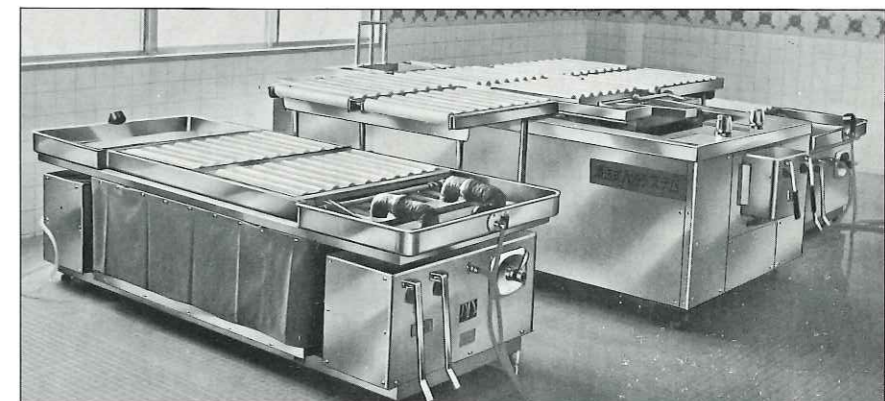
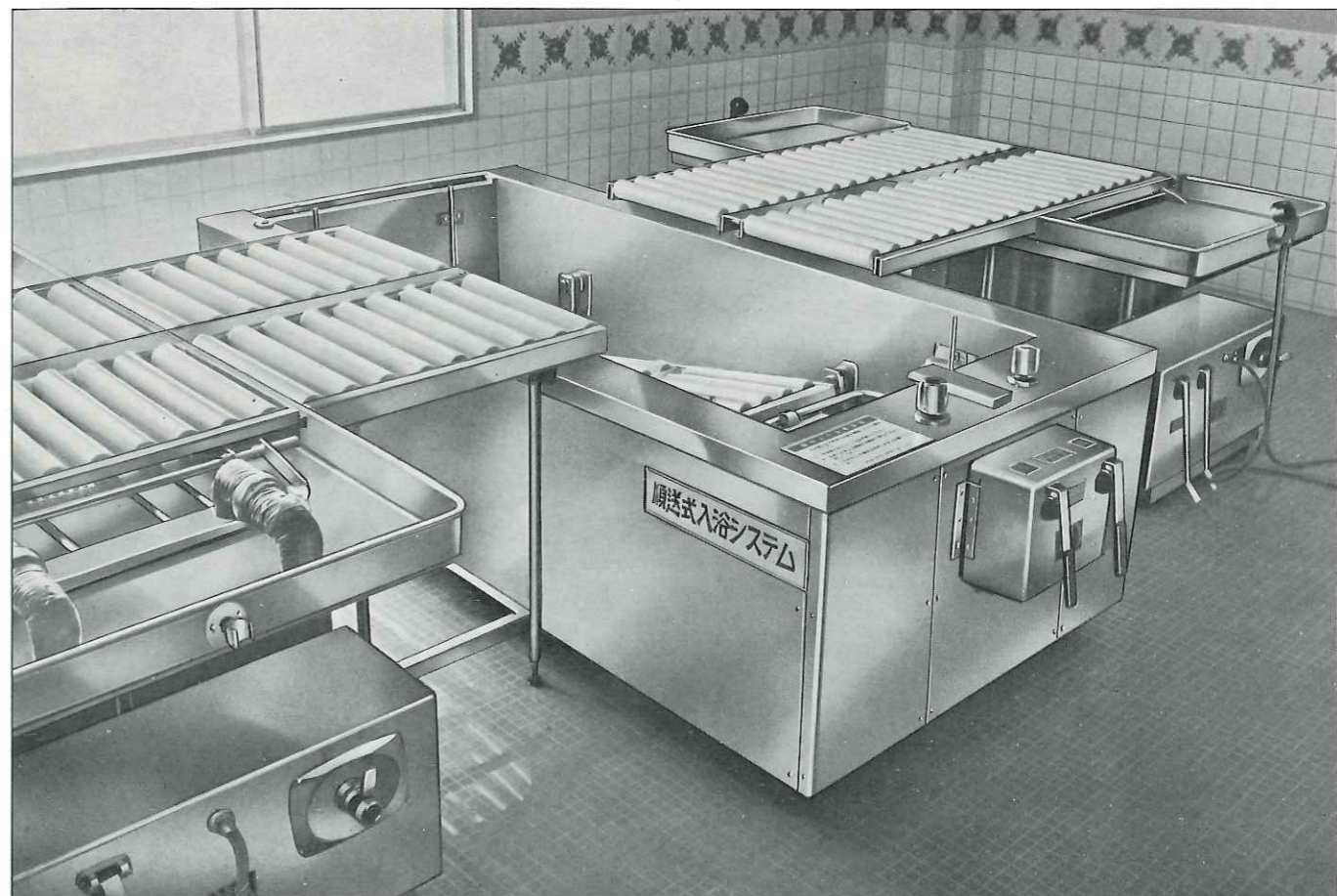
浴槽のローラー付担架支持台もおなじように電動で静かに昇降—もちろんスイッチの操作はすべてヒザと足。介助者の“手”をふさぎません。支持台は“おとしより”の体が足の方が低くなるよう斜めに降下して、耳に水が入ったり、ましてもぐってしまうことなど決しておきない安心機構です。

作業に便利ないろいろな装備

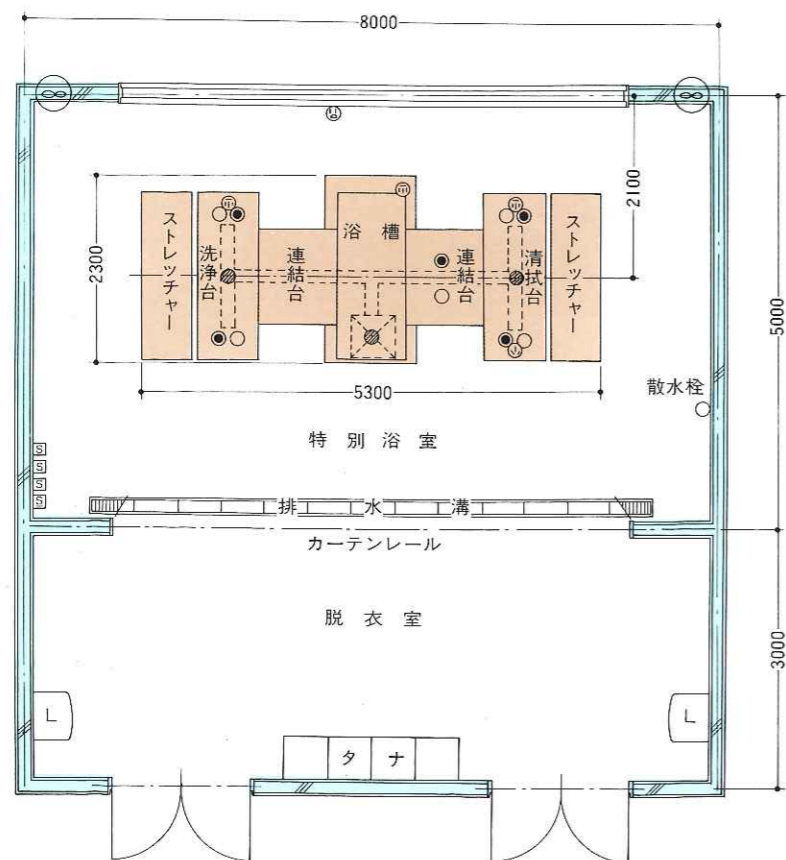
洗浄台、清拭台にはそれぞれ2基のシャワーが備えられ、タオル、石ケンなどの小物も手もとにおいて作業能率を高めま。清拭台には温風発生装置が装備され、担架の底面をかわかすのに便利です。

清潔な装置です。

作業台、浴槽、ストレッチャーの金属部分はすべてステンレススチール製。ローラーはプラスチック製ですから汚れたりサビがでることはありません。“おとしより”に気持ちの良い入浴をつづけていただくために“清潔”な装置のままおつかいいただけます。もちろん電気的な部分や精密な機械部分は完全防水で危険なくおつかいいただける信頼できる装置です。



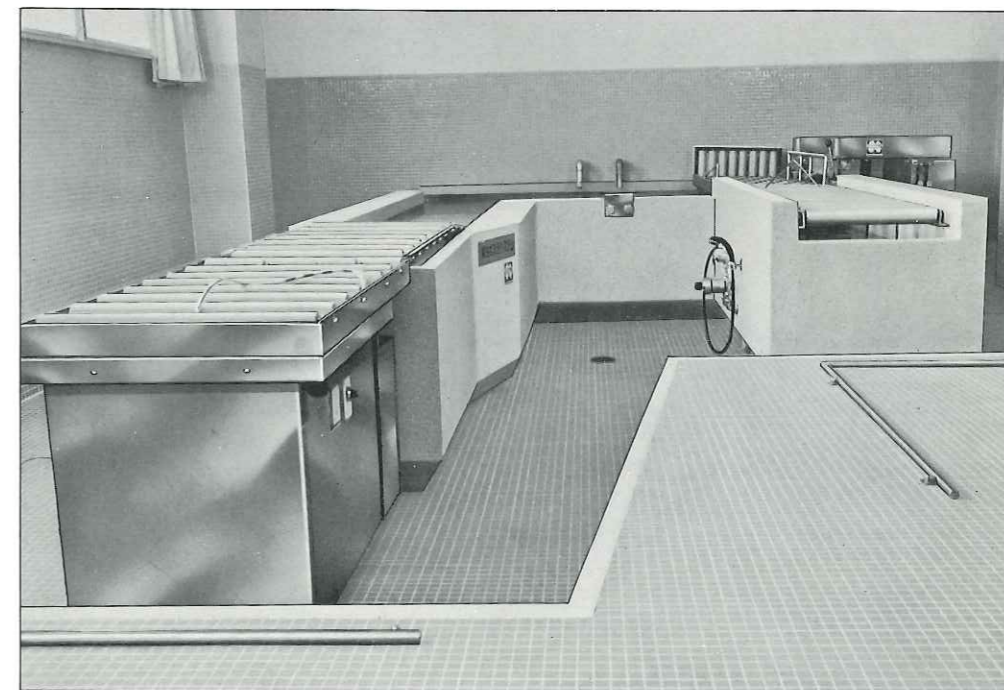
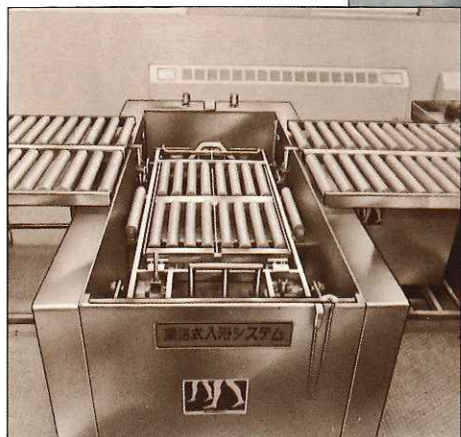
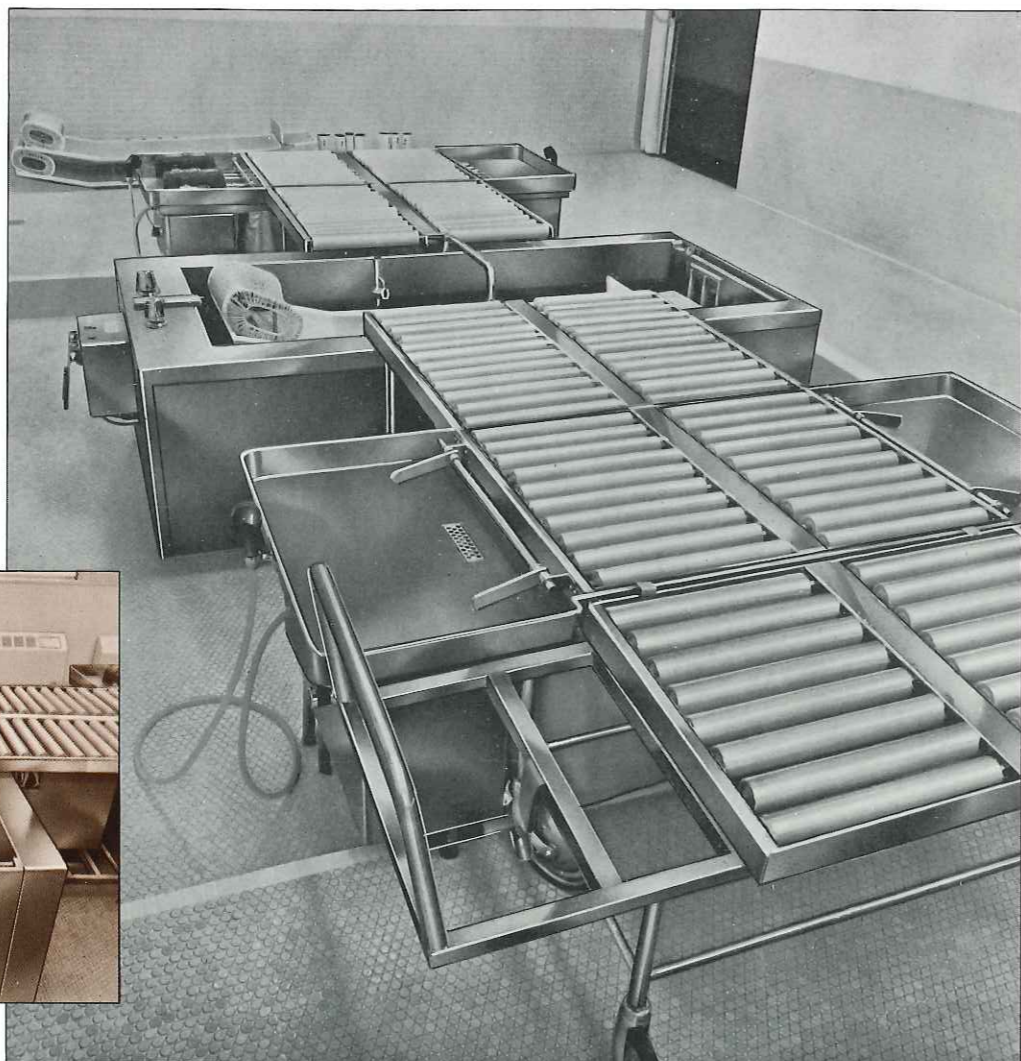
順送式入浴装置
標準配置図



- 給湯
- 給水
- ⊗ 排水
- Ⓜ 電源
- Ⓜ 電源
- Ⓜ 電源
- Ⓜ スイッチボックス
- Ⓜ スイッチボックス
- Ⓜ 換気扇

白石ハイツ

(北海道)



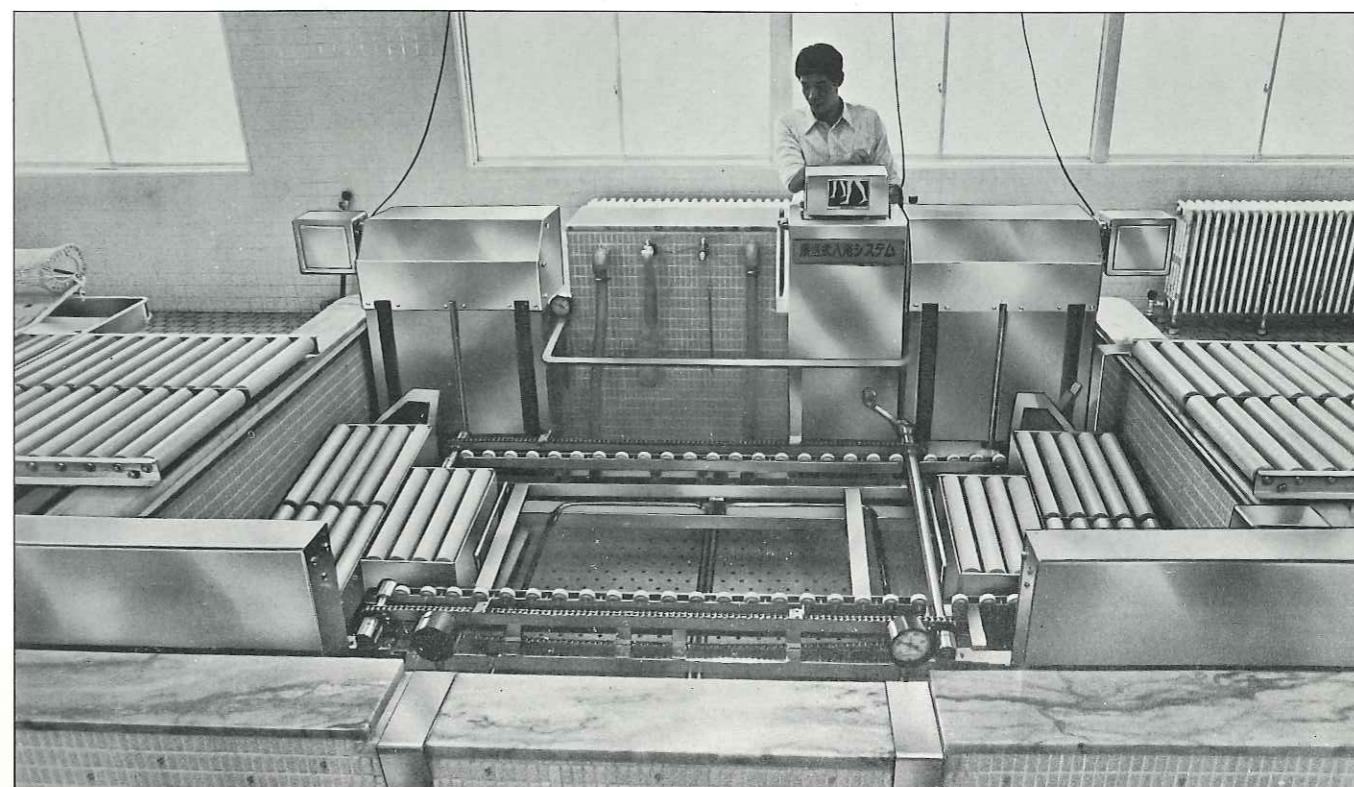
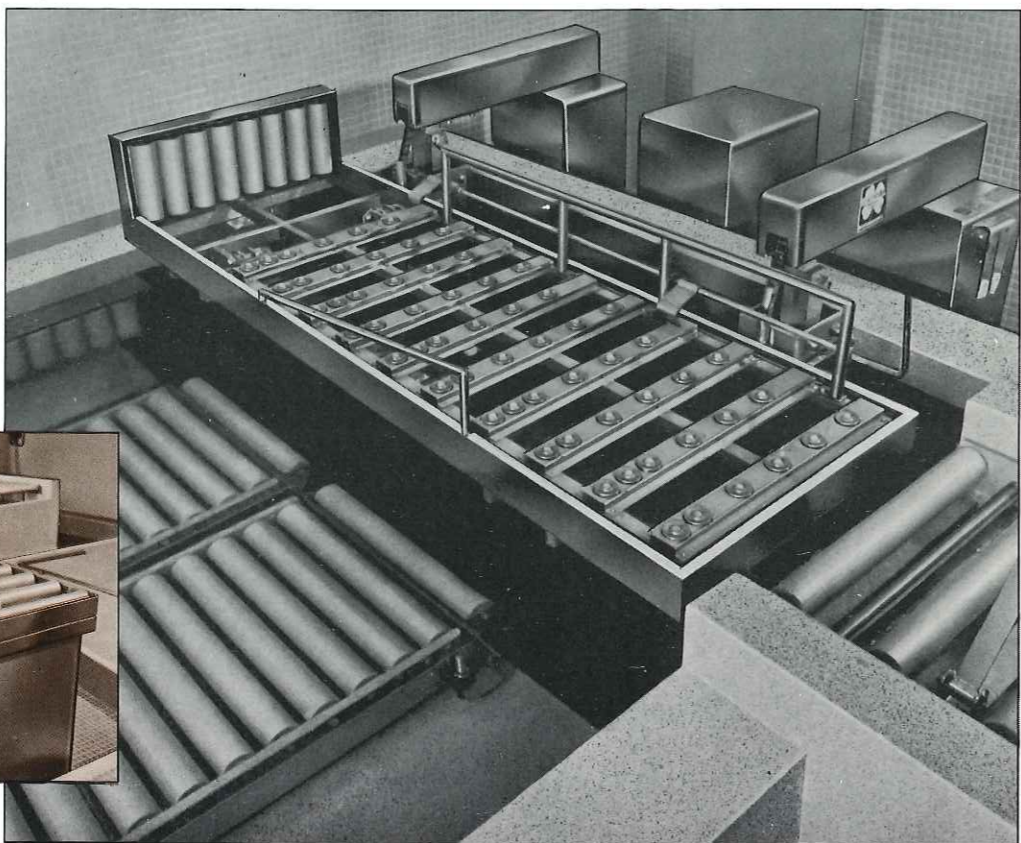
陽風園

(金沢)



北湯沢

(北海道)



順送式入浴装置 PBS-131 標準 構成・仕様

名称	数量	外形寸法	機 構 材 質	設 備 規 格	附 属 品	備 考
担 架	6 台	(L) 1750 (W) 500	本 体……FRP樹脂 調節式手すり…ステンレススチール 調節式足当…塩ビ 枕 …… 籐		マット	
ストレッチャー	4 台	(L) 1930 (W) 570 (H) 780	本体枠 ……ステンレススチール ローラー…ABS樹脂 キャスター…スチール		担架ストッパー 2組	ローラー面高さ 550
洗 淨 台	1 台	(L) 1920 (W) 780	本 体……ステンレススチール ローラー…ABS樹脂 昇降動力部…スチール	電気 3相200V 15A 給湯 20(3/4") 2本 給水 20(3/4") 2本 排水 FD50(2")	シャワー 2式 昇降スイッチ 1式	ローラー面高さ 550~780 3相1馬力モーター使用
清 拭 台	1 台	(L) 1920 (W) 780	本 体……ステンレススチール ローラー…ABS樹脂 昇降動力部…スチール	電気 3相200V 15A 電気 AC100V 20A 給湯 20(3/4") 2本 給水 20(3/4") 2本 排水 FD50(2")	シャワー 2式 昇降スイッチ 1式 清拭補助用温風装置 1式	ローラー面高さ 550~780 3相1馬力モーター使用 AC400Wモーター使用 ヒーター800W
連 結 台	2 台	(L) 840 (W) 950 (H) 780	本体枠 ……ステンレススチール ローラー…ABS樹脂			
浴 槽	1 台	(L) 2370 (W) 1050 (H) 780	構造部 枠…スチール 浴 槽…ステンレススチール 昇降枠 ……ステンレススチール ローラー…ABS樹脂 昇降動力部…スチール	電気 3相200V 15A 給湯 20(3/4") 給水 20(3/4") 排水 80(3") 堀込	担架ストッパー 2組 昇降スイッチ 1式	湯量 約800ℓ 3相1/2馬力モーター使用 スロースタート スローストップ昇降

(注) 上記仕様は予告なく変更されることがあります。御了承下さい。
上記仕様その他、御施設、御注文に応じ御相談させていただきます。



酒井医療販売株式会社

東京都文京区本郷3丁目31番7号 TEL. 東京 (03) 814-0411(代)~5

酒井医療電機株式会社